

「落花生」生育情報（第3報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。

調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を予測するものではありません。

令和3年9月10日

千葉県農林水産部

生産振興課

1 生育状況

7月中下旬は、平均気温、日照時間ともに平年を上回りました。さや実が肥大する8月の天候は、平年と同程度で推移したものの、中下旬には日照時間の短い日がありました。降水量は8月上旬から中旬にかけて、局地的なゲリラ豪雨もあり、平年よりも多くなりました。そのため、作況調査ほ及び落花生研究室のほ場において、9月1日時点におけるさや実数は平年と比較して同等以上となり、さや実重は平年よりもやや少ないものの、上さや不稔歩合は平年よりも小さく、空さやは少ない状況となっています。

表1 作況調査成績（9月1日調査）

品種名	年次	開花期	さや実数 (個/m ²)	(さや実数のうち)	生さや実重 (g/m ²)	乾燥さや実重 (g/m ²)	上さや 不稔歩合(%)
				上さや数 (個/m ²)			
千葉半立	本年	7/10	200	74	688	137	0.5
	前年	7/9	170	56	595	163	4.0
	平年	7/9	204	80	710	171	2.2
ナカテユタカ	本年	6/29	242	133	758	264	0.0
	前年	7/8	237	112	757	292	2.5
	平年	6/30	245	141	788	280	1.7
千葉 P114 号	本年	7/6	258	127	817	221	0.0
	前年	7/8	190	95	640	202	3.0
	平年	7/5	262	136	872	250	0.4

* 本年値は、各品種の調査結果の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取の3地区、「ナカテユタカ」は千葉・海匝の2地区、「千葉 P114 号」は、印旛、香取、長生の4地区。

* 平年値は、平成26年から令和2年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「千葉 P114 号」のみ平成28年から令和2年（5年間）の平均。

表2 (参考) 落花生研究室(八街市)の作況(本年の値、9月1日調査)

は種日	品種名	開花期	さや実数 (個/m ²)	(さや実数のうち)		生さや実重 (g/m ²)	乾燥さや実重 (g/m ²)	上さや 不稔歩合(%)	収穫期 目安(※)
				上さや数 (個/m ²)	生さや実重 (g/m ²)				
5月20日 (標播)	千葉半立	7/1 (+1)	362 (138%)	86 (83%)	1,156 (129%)	220 (89%)	0.0 (-2.6)	10/4 (+1)	
	ナカテユタカ	6/28 (±0)	376 (142%)	143 (147%)	1,154 (147%)	334 (121%)	1.0 (-1.6)	9/17 (+1)	
	おおまさリネ オ	6/28 (±0)	397 (135%)	41 (75%)	1,829 (136%)	269 (96%)	1.5 (-1.2)	9/26 (+1)	
	千葉P114号 (Qなつつ)	6/30 (+1)	371 (143%)	122 (117%)	1,179 (144%)	304 (107%)	0.0 (-1.0)	9/19 (+3)	
	千葉半立	7/15 (+1)	268 (125%)	83 (146%)	937 (130%)	161 (110%)	0.0 (-1.2)	10/18 (-6)	
6月9日 (晩播)	ナカテユタカ	7/13 (+1)	285 (127%)	138 (157%)	1,015 (140%)	242 (119%)	0.0 (-1.4)	10/1 (-1)	
	おおまさリネ オ	7/13 (±0)	282 (138%)	40 (160%)	1,586 (151%)	216 (129%)	0.0 (-1.0)	10/11 (-1)	
	千葉P114号 (Qなつつ)	7/15 (+1)	250 (114%)	123 (142%)	936 (129%)	215 (113%)	1.0 (-0.2)	10/3 (+1)	
	千葉半立	7/15 (+1)	268 (125%)	83 (146%)	937 (130%)	161 (110%)	0.0 (-1.2)	10/18 (-6)	

※落花生研究室の栽植密度は、「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「千葉P114号」は5,128株/10a。
 カッコ内は平成28～令和2年の平均値対比を示す。
 収穫期の目安は、開花期後の標準日数(全て煎莢用)で算出。

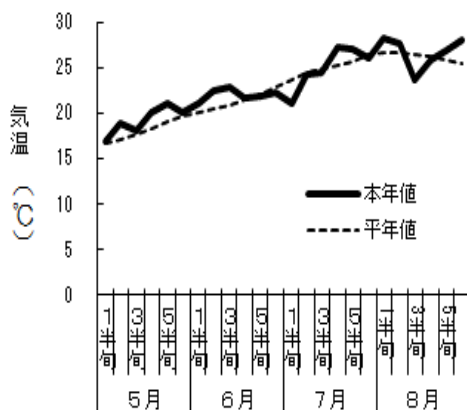


図1 気温の推移(アメダス、佐倉)

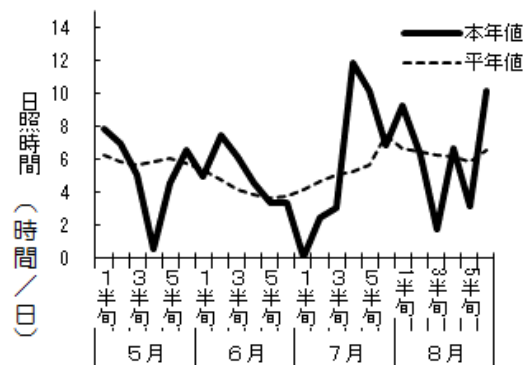


図2 日照時間の推移(アメダス、佐倉)

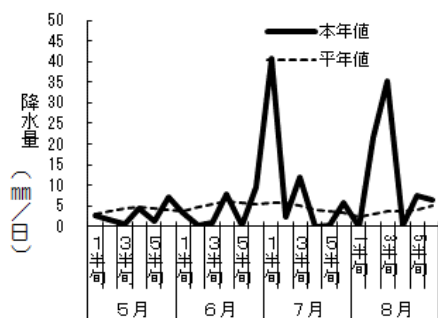


図3 降水量の推移(アメダス、佐倉)

2 これからの管理のポイント

(1) 「試し掘り」で適期収穫

落花生の掘取時期の目安は、下表のとおりです。

今年は、生育や開花期にばらつきが見られますので、収穫時期が近づいてきたら、必ず試し掘りをして、収穫適期を逃さないように気をつけましょう。砂地の地域では収穫期が早まるので、早めに試し掘りをしましょう。

表3 開花期からの掘取時期の目安

	千葉半立	ナカテユタカ	おおまさりネオ	千葉P114号
開花期からの掘取時期の目安	95日後	80日後	85日後 (ゆで莢用) 90日後 (種子用)	80日後

(2) 適切な乾燥の実施

掘り取った落花生は、5～7日間の地干しの後、風通しの良い場所を選んで野積み(ボッチ積み)やトンネル乾燥を行い、さらに乾燥させます。

〔野積み(ボッチ積み)〕

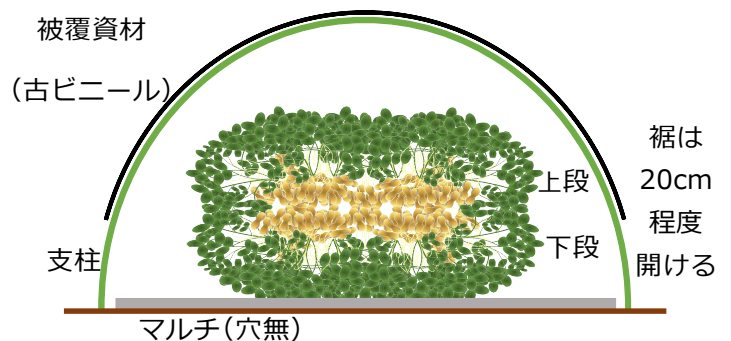
野積みは、湿気がこもらないように管理することが大切です。風通しの良い場所に小さく野積みし、頂部をブルーシートや稲わら等で覆い、雨をしっかりと防ぎましょう。透明ビニールシートは熱がこもりやすく、カビの発生要因となるため、使用しないでください。特に早い時期に収穫した品種は、茎葉が多く蒸れやすいため、注意が必要です。



野積み

〔トンネル乾燥〕

トンネル乾燥は、収穫後3～7日程度地干しを行った後に、降雨の前に雨よけトンネルに入れて乾燥を行う方法です。カビを発生させることなく、野積みによる乾燥と同じ品質の落花生を得ることができます。トンネル内では、地干しした株の莢が内側になるよう上下2段で積み、2～3週間程度乾燥させます。



トンネル乾燥の模式図

詳細は、千葉県ホームページ内のフィールドノート平成30年9月「雨よけトンネルを活用した食味を落とさない落花生の乾燥方法」

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/field-h30/hata-2018-09.html>)を参照してください。

〔野積みとトンネル乾燥の使い分け〕

地干し後の乾燥方法は、収穫時期によって野積みとトンネル乾燥を使い分けると効果的です。9月は、気温が高く、カビ等による品質の低下を防ぐため、トンネル乾燥を、10月以降は、外気温が低下し、トンネル内に結露が発生して乾燥しにくくなるため野積みを推奨します。

収穫時期	9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
降雨時のカビ発生リスク	大		中	小		
トンネル乾燥での乾燥速度	早		中	遅 (朝露が原因)		
トンネル乾燥適期						
ぼっち乾燥適期						

(3) 優良種子の確保

来年の落花生栽培のため、自家採種する種子を多めに確保し、発芽不良の原因となる幼芽褐変がないか、確認しておきましょう。

自家採種では、異型株・異型莢を除去するとともに、十分な乾燥により、カビを防ぎ、優良種子の確保に努めましょう。

また、自家採種を続けると品質や収量が低下する恐れがありますので、3～4年に1度、計画的に種子更新を行うことをお勧めします。

<幼芽褐変の見分け方>



健全種子



幼芽褐変 軽度
本葉が褐変
出芽率9割



幼芽褐変 中程度
胚軸上部が褐変
出芽率6割



幼芽褐変重症
本葉全部と胚軸上部が褐変
出芽率1割

(4) 「栽培管理記録簿」の記入

「栽培管理記録簿」は、生産者自身が栽培管理や使用した肥料や農薬散布の状況を記録し、栽培管理を点検することにより、生産性や品質の向上に役立つものになるとともに、それらを開示することで、千葉ブランド落花生の「安全・安心」を消費者へアピールすることにもつながります。

出荷時に集荷業者に速やかに提出できるよう、もう一度内容を確認し、自分の保存用に控えを用意しておきましょう。